

ウィズセンター情報誌

2018

vol.72

With

特集 岡山県男女共同参画推進月間2017開催報告



男女共同参画推進月間2017

～ みんなイキイキ 男女がともに輝く“おかやま”～

11月は岡山県男女共同参画推進月間です。ウィズセンターでは、記念講演をはじめ、「男女共同参画川柳」入賞作品の展示、登録団体の企画による講演会や活動状況のパネル展示、バザー、交流会などが行われ、多くの参加者でにぎわいました。

記念講演 2017年11月11日(土)



演題

『ペコロスの母に会いに行く

～認知症の母から教わったこと～

おかの ゆういち

講師 岡野 雄一 さん (漫画家)

郷里の長崎で、認知症の母と暮らした日々を描いた漫画「ペコロスの母に会いに行く」の作者である岡野雄一さんに、お母さまと過ごした時間をユーモアを交えて、しみじみとお話していただきました。

父親と離れるために上京

私は、大正生まれで貧しい家庭の長女だった母と、老舗の三男坊で俳優の笠智衆似の父の間に生まれました。体型は母ゆずり、性格は父ゆずりのようです。

20歳のとき、実家の長崎を出て上京しました。父は人づきあいが苦手で、家族を養うために仕事は頑張るものの、ストレスから酒におぼれ、母に暴力をふるう人でした。一緒にいたら自分も父のようにおかしくなるという恐怖に追われていた私にとって、東京での暮らしは、薬のような時間でした。

晩年の父は体を壊し酒をやめ、私も長崎に戻りました。父が80歳で亡くなるまで、父と母と私が共に過ごした10年間は、かさぶたが取れていくような、蜜月のような日々でした。

母が認知症を発症

父の死から1年が経った頃から、母に認知症の症状が見られるようになりました。

汚れものを隠したり、どんどんほどけていく母を見て、「こうまでして生きとかなでも、死ねばよか！」とまで思ったことがあります。

台所で危ないからと、母から包丁を隠したりもしました。何十年も前に父から隠した包丁です。亡き父が居る！と裸足で迎えに飛び出ることもありました。かつて、父から追われ、「助けて！」と裸足で逃げていた母がです。皮肉なものだと思ふ反面、父を一生懸命追いかける母が愛しくもありました。

母との豊潤な時間

その後、母は施設に入所しましたが、そこでの母はなぜか僕の頭をパシパシ叩きながら、数を数えるのです。ある日、レクリエーションで一つ二つと数えながら風船バレーをする

母を見て「あー、俺の頭は風船だったのか…」と気がついた、そんなこともありました。

他界するまでの1年半は、死ぬ瞬間を超スローモーションで引き延ばしたような豊潤な時間でした。横に座っているだけで気配を感じられたのです。

母からは色々なことを教わりました。自分を叩いて酔いぶれた父を寝かしつけながら、「生きとかなば。生きとけばどげんでもなるとやけん」と言った母。「生きていく」ことを常に見つめていた母でした。

描くこと、生きていくこと

私は漫画を描くことで介護ウツを逃れました。ウツを避けるには、プチ親不孝＝少し親を忘れ、介護する自分を解放してやる時間を持つことが必要です。私にとってそれは漫画を描く時間だったのです。

そして母のことを漫画に描くうちに、いつの間にか私のトラウマになっていた若い日の父の姿が消えていました。母が消してくれたのだと思っています。

生きてると、同じことでも若い頃とは違う見方ができるようになります。今、死にたいと考える若者にも、その時まで生きていてほしいと思います。

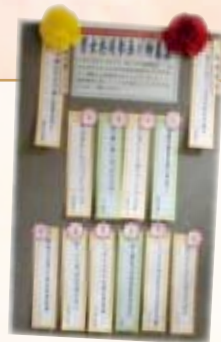
私は今も漫画を描きながら、母の口癖「生きとけば、どげんでんなる」という言葉の意味をかみしめています。



岡野雄一 著「ペコロスの母に会いに行く」より▲

男女共同参画 川柳 入賞作品発表

多数のご応募
ありがとうございました



共働き世帯の増加や、女性の活躍推進に向けた取り組みが進む一方で、「女は家庭」「男は仕事」という考え方は今も根強く存在しています。男性も女性も、どのようなライフスタイルを送るかは個人の価値観によってそれぞれ異なると思いますが、わたしたち一人ひとりが、男性が家事・育児等に参画することをポジティブに捉え、性別役割分担意識を変えていくことが、生きやすさや暮らしやすさにつながるのではないのでしょうか。

岡山県では、毎年11月を男女共同参画推進月間として「男女が共に輝くおかやまづくり」をスローガンに啓発活動に取り組んでいます。今年度は特別企画として、「男性の育児・家事・介護」をテーマに川柳を募集し、155名の方から、延べ646句の多彩な作品をお寄せいただきました。その中から、最優秀賞とペコロス賞（記念講演講師の岡野雄一さん選定）各1句、優秀賞10句が選ばれました。川柳を通して「男女共同参画」を考えるきっかけになれば幸いです。

最優秀賞

抱きしめてパパの匂いは玉子焼き
(パパ料理長)

ペコロス賞

今は育児介護に家事おやじ
(時代の変遷)

優秀賞

イクメンと呼ばれるうちはまだ未熟 (あげねこ)	部長さん急いで帰る家事当番 (チャコちゃん)
泣く娘気づけば夫がおんぶひも (はる)	百倍の勇気を奮い厨房へ (昭和の男子)
僕の名も忘れた母の手の温み (古山はつ子)	ドス声ですやすや眠る子守唄 (ひとふし次郎)
広い背にボンと貼りつくもみじの手 (菊池みえ)	熱下がる妻へ固めの粥を炊く (光岡さなえ)
育児書をしんまいパパがくびっただけ (松井豊子)	立つ時に痛うねえかと夫添う (生カ縫凜)

男性が家事・育児に参画すると・・・

家庭

夫婦の時間が増えて満足度UP。
子どもにも好影響。

男性

コミュニケーション力やマネジメント力が高まり、仕事にも役立つ。
多様な価値観も養えるよ。



女性

家事や育児が軽減され、社会で活躍しやすくなるよ。

企業

人材が多様化し、業績や業務効率化、生産性向上に好影響。

社会

男性の家事時間が伸びると第2子以降の出生が増えて少子化対策につながるよ。

(H29.3「内閣府 男女共同参画会議 男性の暮らし・意識変革に関する専門調査会」の資料を元にしています。)

登録団体交流会を開催しました。

13団体が参加し、楽しくて和やかな交流会となりました。

今回は、「ようこそ、オレンジカフェ『ウィズ』へ!」と題し、認知症カフェに見立てた会場で、「認知症の人と家族の会岡山支部」の景山富久子さんから、介護体験なども盛り込んだ説得力のあるお話をお聞きました。

また、認知症当事者が出演した映像作品を見て、「認知症を発症しても何も分からなくなるわけではないこと」「認知症の人と接するときは、本人の意見を尊重し、できないことだけ手助けすること」等、思いやりの大切さを学びました。

昼食タイムでは各登録団体が日ごろの活動についてPR。それぞれの活動や今後の催しの告知、楽しいパフォーマンスなども披露され、にぎやかに歓談しました。

その後、季節にちなんだ「里の秋」「ゆうやけこやけ」などの童謡を皆で歌い、最後は恒例の「あなたとわたしのウィズソング」を歌って閉会となりました。



参加団体

- ・14期岡山県女性のバス
- ・(NPO)さんかくナビ
- ・(一財)岡山県母子寡婦福祉連合会
- ・フォーラム2000まび
- ・笠岡女性セミナー
- ・きらら
- ・邑久ライフフォーラム
- ・手づくりミュージカル「ドラネコ座」
- ・岡山地域ピーチの会
- ・イースト岡山女性ネットワーク
- ・詩誌「黄薔薇」
- ・おかやま女性国際交流会
- ・岡山県退職女性教職員会の会

男女共同参画推進月間2017 ウィズセンター登録団体主催事業報告

講演会 ◆ 主催：14期岡山県女性のバス

9月15日（金）

演題 「万葉の世界へようこそ！」

講師

藤澤好恵さん（万葉案内人）

759年に大伴家持によって編まれた万葉集は4516首・全20巻からなる飛鳥・奈良時代の人々の思いがこもったアンソロジーです。その万葉集を長年研究してこられた藤澤好恵さんに男女のコミュニケーションをテーマに、恋しい人に寄せる思いを詠んだ歌を中心に紹介していただきました。

「君が行く 道の長手を 繰り畳(くりたた)ね 焼き滅ぼさむ 天の火もがも」

（あなたがお出でになる長い旅路を手繰り寄せ、畳みこんで焼き滅ぼしてしましましょう。そんな天の火が欲しいのです）といった情熱溢れる女性の歌など、1300年前の男女の機微が美しい言葉で表現されていました。

講師の藤澤さんがたっぴりの声量で歌ってくださったり、参加者も声を出して読んでみたりと、万葉の世界を十分に楽しんだひとときでした。



講演会 ◆ 主催：CAPおかやま

9月26日（火）

演題 「性の加害と被害」

講師

藤岡淳子さん（大阪大学教授）

「性の加害と被害～どちらにも関わらない子どもに育むために～」と題してお話を伺いました。予防のためには、子どもの情緒的ニーズを満たすことが必要で、親が自分の情緒のニーズを優先しないこと、子どもとの境界線を侵害しないことが大切とのこと。また、子どもが、特定の対象者に愛着を形成し、帰って行ける安全基地を作ることができること、おとなを「助けを求めれば応えてくれる存在」と感じていることが重要とのことでした。

「健全な性行動と性問題行動は違う。年齢相応の性的行動は健全である。性暴力とは、性行動を通じて、加害をする者が被害を受ける者に押し付ける暴力のこと。だからこそ、自分の境界線が守られるという経験が、加害・被害の予防につながるのだ」と話されました。



意見交換会 ◆ 主催：岡山県婦人問題懇話会

11月25日（土）

テーマ 「わたしの国の女と男」

オーストラリア、韓国、フランス、中国、アルゼンチンからのゲスト

5カ国からゲストを招き、国際的な視点をもった男女共同参画をテーマに、それぞれの国での男女の仕事や子育ての仕方、教育環境や食文化などについて伺い、その後、参加者を交えて意見交換会を行いました。

男女のあり方については、「中国は共働きが基本」「アルゼンチンは男女平等。何も変わらない」「オーストラリアでは男性だけ、女性だけといった性別に偏った仕事はなく、個性にあった仕事をする」「日本の新幹線は車内販売が女性ばかりで驚いた」などの話を聞くことができました。

意見交換の場では、「気づきは大切。他国の事がわかって良かった」「女性も自分で考え伝えることが大事」「平等のためには男女が協力しないといけない」など活発な声上がり、楽しい会となりました。



講演会 ◆ 主催：イースト岡山女性ネットワーク

11月18日（土）

演題 **「リアリティの境界線」**

講師 **樋口俊一さん**（NHK広島チーフプロデューサー）

入社して、まず報道制作に所属した樋口さん。カメラを向けた途端、100パーセントのリアリティは表現できなくなることを実感したとのこと。リアリティを醸成するにはどうすればよいか？そのテーマについて、のちにドキュメンタリーと対極にあるドラマ制作に関わって、探求することに。

『八重の桜』制作時の興味深いエピソードとして挙げられたのは、会津地方では、『維新〇〇年』ではなく『戊申〇〇年』と言うとの話。積年の想いは消えにくいもので、人と人との間でも、国と国の間であっても、問題があればきちんと謝罪が必要なのでは？と触れられました。

また、今も悔いが残るといふ日中孤児のエピソードを挙げ、スクープとリアリティの間での苦悩も話されました。

核兵器廃絶国際キャンペーン（I CAN）の密着ドキュメントを制作される中、来岡された樋口さん。この日は、岡山発のTVドラマ『インディゴの恋人』制作以来愛用されている、岡山デニムのジャケットで登場。劇中のセリフ「傷や汚れが価値になる、人もデニムも」の言葉で締めくくられました。



講演会 ◆ 主催：おかやま女性国際交流会

11月26日（日）

演題 **「アナタのご近所の地域力を輝かそう！」**

講師 **濱家輝雄さん**（倉敷芸術科学大学学長補佐）

女性の力の重要性が取り上げられる昨今、女性の参画によって地域力を高め、輝かせることができればと企画しました。地元放送局のアナウンサーという経験から、“地域力を輝かせるための提案”として、まずは『復古創新』が大切と説きます。古民家再生や伝統工芸の復活は、地域の古き良きものを学び、それを礎として新たな地域づくりに立ち向かう心意気となるとのこと。そして、「地域力」とは隣近所と関わることで、女性の得意な分野だから、日頃から地域と接点を持ち、役に立てればこの上ないと励まされました。けれど「言うばあじゃあおえん」「アクティブラーニングを」と教授の顔ものぞきます。

最後に「往く道は精進にして 忍びて終わり悔いなし」と自らの思いを語り、地域力の重要性を再認識させられる、多くの言葉のバトンを渡していただきました。



カフェ&バザー ◆ 主催：NPO法人さんかくナビ

共催：あいネット倉敷、パープルネット・かさおか

11月11日（土）

ときめきカフェ&おしゃれなバザー

バザーでは、ご協力いただいたたくさんの方の生活用品、雑貨、手作り小物などを、DV被害者や支援者が一緒になって、可愛くラッピングして販売しました。また、ときめきカフェでは、学習支援の学生や子どもたちに協力してもらって作った、美味しいカップケーキとコーヒー・紅茶・抹茶のセットを用意。カフェ、バザーともに予想以上にたくさんのお客様に来ていただき、好評のうちに終了することができました。

バザー用品を提供いただいた支援者の方々、また、ご来場くださった皆さま、ありがとうございました。



登録団体パネル展示

今年は6団体が工夫をこらしたパネルを展示しました。この1年の活動の様子を写真やイラストで伝えるほか、リーフレットや活動報告書の展示で、活動内容をわかりやすく紹介しました。色とりどりの力作は目にも楽しく、来館した皆さんも熱心に見入っていました。

◆出展団体

おかやまエコマインドネットワーク
 おかやま女性国際交流会
 (NPO)ママの働き方応援隊 岡山校
 岡山県退職女性教職員の会
 岡山県婦人問題懇話会
 (一財)岡山県母子寡婦福祉連合会



平成29年度 岡山県男女共同参画社会づくり表彰

平成29年11月21日(火)に、平成29年度岡山県男女共同参画社会づくり表彰式が県庁で行われました。

この表彰は、県内各地域において男女共同参画社会づくりに積極的に取り組み、その功績が顕著であると認められ、今後もその活躍が期待される方々を表彰するもので、伊原木知事から個人3名と事業者1団体に、松尾県民生活部長から個人9名に、表彰状と記念品が授与されました。

■知事表彰

個人の部(五十音順)
青木 美智子(岡山市) ジェンダー統計を語ろうかい代表 岡山市の情報誌「DUO」の編集委員や「さんかくウィーク」の実行委員を務めたほか、市と協働で「岡山市ジェンダー統計2017」を作成するなど、男女共同参画の推進に貢献している。
川畑 鈴子(倉敷市) イーブくらしきネットワーク学習部副部長 学習部副部長として、講座やワークショップの企画立案などに精力的に取り組むほか、他都市の男女共同参画団体との交流事業や人権啓発活動など、長年の経験を生かした男女共同参画に関する多様な活動を行っている。
豊田 直子(里庄町) 里庄セミナー～なぎさ～運営委員 同団体の運営委員として会の中心となり、地域の男女共同参画社会づくりに貢献している。また、看護師の資格と経験を活かし、人へのいたわりをテーマに、多方面のボランティア活動や、DV被害者への支援等にも力を注いでいる。

■県民生活部長表彰(五十音順)

氏名	住所地	功労者としての役職
襟立 喬子	里庄町	里庄セミナー～なぎさ～運営委員
岡村 艶子	倉敷市	宙の会玉島地区リーダー
河本 恭子	岡山市	幸島婦人防火クラブ会長
沢山美果子	倉敷市	元倉敷市男女共同参画審議会委員
塩田 澄子	岡山市	岡山市男女共同参画社会推進センター運営委員会委員
清水 男	総社市	総社市男女共同参画推進審議会副会長
中上由美子	倉敷市	「フォーラム2000まび」広報担当
三宅 香	倉敷市	FMくらしき市民制作番組「プリティーウーマン」スタッフ
米田 輝子	備前市	備前市ネットワーク虹代表

事業者の部
公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構 倉敷中央病院 採用から登用まで積極的に女性の活用を進めており、現在、課長・部長相当職の約3割が女性である。 また、育児や介護に利用しやすい休暇制度、院内保育・病児保育の実施、「女性医師の働きやすい環境づくり委員会」の設置など、仕事と家庭の両立ができる職場環境づくりを進めるほか、育児休職中の職員を対象にした懇談会を定期的で開催し、円滑な職場復帰の支援も行っている。



(写真)

【後列左より】松尾茂樹(岡山県県民生活部長)、襟立喬子、河本恭子、塩田澄子、清水男、中上由美子、三宅香、米田輝子、中山均(岡山県男女共同参画青少年課長)

【前列左より】岡村艶子、青木美智子、川畑鈴子、石本康一郎(岡山県教育庁生涯学習課長)、伊藤文夫(岡山県議会議長)、伊原木隆太(岡山県知事)、島村裕史(岡山県警察本部少年課長)、豊田直子、山形専(公益財団法人大原記念倉敷中央医療機構倉敷中央病院長)



「働く」ということは誰にとっても大切なテーマ。私たちが労働者として持っている権利とは？働きがいのある人間らしい仕事とは？「ディーセント・ワーク」について、渋谷典子さんのお話とワークショップで理解を深めました。

演題 『働くために生きるんじゃない、生きるために働くんだ！
～ブラックからホワイトな働き方への転換をめざして～』

講師 しぶや のりこ **渋谷 典子**さん(認定NPO法人ウィメンズアクションネットワーク(WAN)副理事長)

「ディーセント・ワーク」との出会い

NPO活動の中で、名古屋市男女平等参画推進センターを指定管理者として約8年間運営しました。雇用される側から雇用する立場になり、「労働問題」に直面したのです。そして48歳で大学院に入り、労働法を学びました。

その中で、『人権としてのディーセント・ワーク』（西谷敏、旬報社・2011年）の読書会を仲間とともに開催し、その理念を伝える活動を展開しています。「ジェンダー」と言う言葉が約25年間をかけて徐々に浸透していったように、「ディーセント・ワーク」もこうした活動を続けることで着実に広まっていくはずですよ。

人はなぜ働くのか？

私たちは何のために働くのでしょうか？お金のため、生活のため、家族のため、人それぞれだと思います。私も年を追うごとに変化してきました。60代になった今は「伝えたいことがあるから」が答えです。

労働には、有償労働（ペイド・ワーク）だけでなく、家事、育児、介護などのケア労働やボランティア等の無償労働（アンペイド・ワーク）もあります。ケア労働は女性が担う割合が高く、また、男性のように仕事

中心の生活ではボランティア活動にも参加できない状況があります。今後は、無償労働に光があたる社会へと変わる必要があります。

労働法を味方にする

「労働法」とは、使用者と労働者の関係を限りなく対等にして、労働者の権利や労働条件を守っていく法律です。現在、ある程度法制度は整ったものの、仕事と育児・家事・介護の両立、長時間労働と取得しにくい有給休暇、ハラスメント、男女の賃金格差、増え続ける非正規雇用など解決すべき問題が山積みです。ディーセント・ワークの実現は、解決に向けての重要な目標です。

ディーセント・ワークの実現へ向けて

ディーセント・ワークへのアプローチとして「人権」「時間」「ジェンダー」という3つの軸があります。「労働法」は、男性（健康で十分に働くことができる）中心に設計されているため、妊娠・出産する身体をもち、家族圏でのケア労働に深く関わっている女性は、常に「二流の労働者」とみなされてきました。ジェンダーの視点で労働法を問い直そうという動きも、ディーセント・ワーク実現への一歩です。

ワークショップ～ディーセント・ワーク24の課題から～

- 第2部は森智香子さん（チーム＝ディーセント・ワーク副代表）をファシリテーターに4人ひと組で、ディーセント・ワーク24の課題について話し合いました。
- さまざまな年代や立場の方が集まる中、グループごとに最優先するべきと思う課題を発表しました。
- 一番多く票が入ったのは「時間主権」（自分の時間を自分のものに！）次点は「声をあげよう！つながってこよう！」でした。
- どのグループも活発に意見交換し、なごやかな中にも「働き方」を通して自分の生き方を考えることのできた有意義な時間でした。

ディーセント・ワーク ＝働きがいのある人間らしい仕事





ご自身の体験をもとに、母と子が元気に暮らせる社会を目指して支援の輪を広げてこられた赤石さん。シングルマザー当事者や支援者に向けて、日々の活動の様子や国の制度など、写真やデータを交えながら、たくさんのヒントや情報をお話しいただきました。

演題 『シングルマザーのための子ども・仕事・暮らし
ハッピーセミナー ～ひとり親家庭の現状と支援～』

講師 あかいし ちえこ
赤石 千衣子さん (NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ理事長)

ひとり親家庭の貧困問題と支援

日本は子どもを抱えて働くのが困難な国と言われます。日本の母子世帯は就業率は高いのですが、その6割が年収200万円以下で、生活保護受給率は14.4% (全世帯では3.2%) となっています。

最強の支援は児童扶養手当ですが、現在は4ヶ月ごとのまとめ支給となっており、家計管理がしづらいため、2ヶ月ごとの支給にするよう検討されています。

なお、当NPOでは寄付金を集め、2016年度には365人に入学金をお送りし、漏れた方にも食料支援を行うことができました。

シングルマザーのエンパワーメント

シングルマザーが同じ立場の人と出会い「自分だけじゃなかったんだ!」と気づける場として、グループ相談会を開いています。自己肯定感が生まれ、元気になれる場所です。修了後に提携企業の採用面接が受けられる就職支援プログラムも人気です。また、就活や子どもの入学時の、スーツや口紅等の提供も喜ばれています。「おしゃれをする」ことが力になるんですね。

離婚の背景

家族の形も多様化し、今や核家族は全体の約3割。「幻の家族像」とも言えます。統計によれば、クラス40人中2~3人は母子世帯で、そのうち80%が離別です。しかし、離婚を防げばよいかというと、身体的・経済的DVが背景にある場合もあり、単純ではありません。離婚するかどうかは自身の問題であり、本人の選択に委ねられますが、子どもへの影響は大きいと思います。

あなたはひとりじゃない

以前、ネットカフェから助けを求めてきた10代の妊娠後期の女性を、ボランティアの方と出産まで応援したことがあります。彼女は、不利な連鎖の中にいましたが、「相談する」という力を持っていました。そして今、「支援者になりたい」と将来の夢を語っています。

私が相談者に伝えていることは、「よくやってきたね!」「必要なときに助けてと言える人が強い人だよ」ということです。そして、優しさをもらったら、「他の誰かに恩送りしてね!」とお話ししています。

※数値は平成23年度全国母子世帯等調査、平成24年度被保護者調査による

講師を交え、心配事や悩みを話し合ったほか、よりよい支援に向けての交流会も実施しました

- 仕事と子育ての両立をどうするか
- 病児保育やファミリーサポートの制度が利用しづらい...
- 給付金や手当などの制度について
- 話題になったこと
- 子どもに父親のことをどう話したらいい?
- シングルマザーの雇用に向けた利用しやすい企業内保育所とは?

今回の企画にご後援をいただいた、(一財)岡山県母子寡婦福祉連合会様からメッセージが届いています。

子育てや仕事の悩み、語り合いませんか

……(一財)岡山県母子寡婦福祉連合会、通称「母子会」は、戦争未亡人が子どもと共に生き抜くために行政に訴えていく団体としてスタートしました。……活動単位となる市町村や全域行事を担う都道府県(政令市・中核市)の母子会、さらに(一財)全国母子寡婦福祉団体協議会と密接に連携して母子家庭の声を拾い上げ届ける福祉団体として、今もひとり親家庭を取り巻く生活環境の改善や就労支援制度の充実を求めて、全国の仲間と共に活動を続けています。

……子育ての不安、職場での悩みなど同じ立場の仲間と気軽に話をしてみませんか?親子で参加できるイベントもあります。ぜひ一度参加してみてください。

母子寡婦福祉連合会の連絡先はこちら
086-226-7349
<http://okayama-boshikai.net/>



20年前、ご自身の電車内での授乳体験をきっかけに、女性がどこでも気兼ねなく授乳できる服づくりを始めた光畑さん。授乳服を通して取り組んでこられた「子連れ出勤」というワークスタイルと、自分らしい生き方についてお話しいただきました。

演題 『授乳服がつくる新しい仕事スタイル
～モーハウスの子連れワーク～』

講師 みつはた ゆか
光畑 由佳さん (有限会社 モーハウス代表)

授乳服がつくるライフスタイル

授乳服を作っています。肌を出さず、どこでも授乳できる服です。始めたきっかけは、0歳の子どもを連れて電車に乗った時、途中で泣き始め、人前で授乳せざるを得なかったことです。子育てにあたりまえの「授乳」をあたりまえにしたい、外での授乳の大変さを楽しみに変えたい、そういう発想からスタートしました。

授乳服を着た瞬間、世界が変わりました。赤ちゃんを連れてどこへでも行けるし何でもできる。自信が湧き、子育てにはプラスしかないと思えたのです。

仕事と子育ての両立のあり方

授乳服の製作販売を行うスタッフは、約9割が子育て中の母親です。さらにその半数は2歳頃までの子どもがいます。その子たちは日中どこにいますか？ 答えは「お母さんの仕事場にいる」です。

結婚前、私は女性が活躍できる職場にいました。やりがいにはありましたが、終電かタクシーで帰宅する毎日に、子どもが生まれたらこんなふうには働き続けることは無理だと思っていました。

でも、働くことを諦めきれませんでした。私は倉敷の商店街育ちです。どの家も母親は店に立ちながら家事と育児をしていました。その経験が、「仕事と子育てが一緒にできていいんじゃない？」という思いに繋がっているのかな、と思います。

★多様な働き方について、ミミ対談も行いました。

仁木：お話を伺って、キャリアも子育てもいろんな方法があっただと心強く感じました。

介護業界は人材確保が大変。働きやすい施設でないとも選んでくれません。結婚して子どもが生まれても、夜勤をするか辞めるかという二者択一の厳しい状況から、「どうやったら働けるか」を尋ねてひとつひとつ形にした結果、うちの勤務表は53通りになったんですよ。

光畑：これしかない、じゃなくて、ないなら作ればいいと。ひとりひとりにあわせたやり方があっていい。共感できる取り組みですね。

子連れ出勤は、始めた頃はうるささや衛生面で心配の声があっただけ。でも実際やってみると意外なほど何も問題がなかった。リアルを知ってもらうことが大切ですね。

選択肢は1つではない

私は、すべての方に子連れ出勤を勧めているわけではありません。これから子育てをする人が「仕事と子育て、どちらか諦めなきゃ」と思っているのなら、子どもと一緒に仕事をする事だってできるんだよ、という選択肢を見せてあげたいのです。時短勤務、勉強、ボランティアなどできることはいろいろあります。皆さんには、子どもが大きくなるまでは、と立ち止まらずに壁を打ち破ってほしいと思います。

そして、「子どもがいるからできない」と言わなくていい、社会と子育てをミックスした、子慣れた(こなれた)社会を作っていきたいと思うのです。

マインドセット(思い込みや先入観)にとらわれない生き方

私のしてきたことは山登りではなく川下り。結婚、出産、転居、電車で子どもが泣いたこと。思い通りにならないことはたくさんあったけれど、あらがうのでなく置かれた状況を活かして、あるがままに生きてきました。外に出るのを我慢して子育てをしよう、そう縛っているのは自分自身かも。先入観を変えていく手助けができればと思います。

スタッフの子どものFちゃんは、人形と紙とペンを持っておままごとをしています。赤ちゃんを抱いて仕事の打ち合わせをしているのです。これがあたりまえの社会になるといいですね。

仁木：思い込みをなくすというのは大事です。そして、自分の働き方に余裕ができて、自信がついてくると人に対していろいろな配慮できるようになるんですよね。

同僚の子育て、さらには地域の子育ての応援へ。今、そんな良い循環が生まれていると感じています。

光畑：制度も進んで、育休中に少し働くという選択もできるようになってきました。子育てと働き方がこれからどう進むか、見えてくる景色が変わっていくのを楽しみにしたいと思っています。



にき のりこ
仁木 則子さん(写真右)
社会福祉法人津山福祉会
特別養護老人ホーム高寿園施設長



全国各地でDV・トラウマに関する講演、研修を多数行っている、西山さつきさん。ご自身の体験をもとにした被害者支援のあり方とともに、心の回復力について、わかりやすくお話しいただきました。

演題 『身近な問題としてDV・デートDV・モラルハラスメントを考える』

講師 にしやま 西山 さつき さん (NPO法人レジリエンス 副代表理事)

レジリエンスとは、こころの「回復力」

人は、傷つけられたらへこみます。へこんだ分だけ、またはそれ以上に跳ね返す力がレジリエンスです。

誰の中にも必ずある力です。傷ついた過去は変えられませんが「自分が悪かったから」でなく「自分は悪くない、この環境でよく頑張った」と過去の捉え直しをしていきましょう。そう思うことで、今後の生き方に影響があるはずですよ。

DV = 権力 + 支配 + 暴力 (支配のための手段)

DVとは、親密な関係性の中で、一方的に繰り返される暴力のことで、女性の4人に1人が配偶者からの暴力を経験しています。たとえば新型コロナウイルスに4人に1人が感染するとしたら、「大丈夫?」と思うはず。DVは身近でおきている社会問題です。

チャンネル権を例にとると、平等な関係なら、「変えるね?」と一言あります。一人がリモコンを独占し、他の人は殴られるから何も言えないとしたら…?

その家の中で起きている暴力は、公の場でも許されることでしょうか。社会の中で暴力を許さない意識を高めていくことが必要です。どんな問題にも暴力以外の解決方法が必ずあります。暴力が起きるのは、暴力を解決手段に選んだ人がいるからです。暴力をふるわれていい人はひとりもいません。

良い人間関係に必要な、対等・尊重・安全

よい関係に必要な要素は、平等で対等であること、相互に大切にしたいこと、そして安全であること。

特に安全は、職場でも家でもパートナーシップでも、人間関係における大切な要素です。

安全が脅かされると、人はまず安全確保のために力を使い果たしてしまいます。安全ならば、自分の力の100%を勉強や仕事など、本来の能力を伸ばすために使えるのです。

「カレーは甘口か辛口か」そんな小さなことで意見が分かれることがあります。DVの関係では、片方はいつも「お前が間違っている」と言い、もう片方は手っ取

り早く暴力を収めるため「ごめんなさい」と謝ります。小さな出来事でも、それは薄紙のようなもので、一枚重なるごとに息苦しくなっていきます。

こんなとき「どっちもいいね」「どうしようか」と言い合えるのが、根底に尊重がある関係です。

相談から生まれる希望

嫌なことは嫌と主張したら?という意見も聞きますが、DVはコミュニケーション不足から起きているわけではありません。喧嘩と同じに思われると、誰もわかってくれないという無力感に繋がります。

また、DVから離れても、自分のことが好きになれないなどの生きづらさが残るのがトラウマです。

「味方がいる、わかってくれる」と思えると救われます。情報を得る仕組みがあること、社会とのつながりを広げられることが大切。誰にも相談できないのは絶望。「あなたは悪くないよ、一緒に考えよう」と言われて初めて1%の希望が生まれるのです。



内閣府男女共同参画局 女性に対する暴力をなくす運動の描きおろし漫画 © 西山理恵子



パープルリボン運動を知っていますか？

・・・パープルリボン運動とは・・・

- ◆11月25日は「女性に対する暴力撤廃国際日」です。毎年この日までの2週間（11月12日～25日）を、「女性に対する暴力をなくす運動」の実施期間とし、夫やパートナーからの暴力、性犯罪、売買春・人身取引、セクシュアル・ハラスメント、ストーカー行為等が、女性の人権を侵害する決して許されないものであることを広く呼びかける運動を行っています。
- ◆パープルリボンは、女性に対する暴力根絶のシンボルマークです。「暴力をなくそう」という願いと「ひとりで悩まないで相談を！」のメッセージがこめられています。

OHK岡山放送
電波塔



イオンモール
岡山



県内各地で行われたツリーの設置、ライトアップなどの取り組みの一例です。



ウィズアップ
くらしき



旧遷喬尋常
小学校(真庭市)

瀬戸内市役所
ロビー



津山城(鶴山公園)

相談室から ～ 4月は「AV出演強要・『JKビジネス』等 被害防止月間」です。～

- 「モデル・アイドルになりませんか」と声をかけられた…。「高収入アルバイト」に応募した…。その後、聞いていない・同意していないのに性的な行為等の「写真」や「動画」を撮影されたり、性暴力やストーカー等の被害を受けた…。そんな「JK(女子高生)ビジネス」や「AV(アダルトビデオ)への出演強要」などの問題が若年女性の間で発生しています。
- また、スマホなどで撮影した自分の画像を、他人に悪用される「自撮り」被害も急増しています。SNSで知り合った相手に送信する事案が多く、危険性を知らずに安易なやりとりを行うと、犯罪や性的搾取の被害にあいやすくなります。

“大丈夫!? その契約、そのアルバイト”

もし、被害やトラブルにあってしまったら
「契約してしまったから仕方ない」
「親や学校に知られたくない」と

ひとりで悩まないですぐに相談を！

あなたの大切な人が被害にあったとき。
ひとりで解決することが難しいとき。
悩みや本音を受け止めてくれる
場所があります。

～相談窓口はこちら～

■相談時間 火～土曜日(祝日を除く)
9:30～17:00
(受付は16:30まで)

■相談専用電話

086-235-3310

- プライバシーに配慮し、秘密は厳守します。どうぞ安心して相談してください。
- これからのシーズン、進学や就職などで、生活環境が大きく変わる時期です。新たな被害を生まないためにも、内閣府のホームページもご覧ください。

http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/avjk/index.html



↑ QR コードこちら

ウィズライブラリー

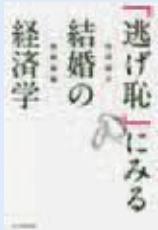
～新着図書より～



生きていくあなたへ
-105歳どうしても遺したかった言葉-

日野原重明／幻冬舎（2017年）

「読んでくださる一人一人、私とあなたとの対話の一冊です。」生涯現役の医師105歳の日野原先生が、死の直前まで紡いだ言葉には希望と感謝が詰まっています。



「逃げ恥」にみる結婚の経済学

白川桃子、是枝俊悟／毎日新聞出版（2017年）

話題になったドラマ『逃げるは恥だが役に立つ』が明らかにした家事労働の経済価値。今の時代に生きる人の「結婚」「お金」「夫婦の形」を、少子化ジャーナリストとエコノミストが語った一冊。



いわさきちひろ -子どもへの愛に生きて-

松本猛／講談社（2017年）

子どもへの愛を描き続けた絵本作家いわさきちひろの生涯を、息子が綴った評伝。逆行を乗り越えた、ちひろの人生と実像が見えてくる一冊。

映画のつどい

4月～6月の上映予定

◆ 4月19日(木)

「天のしずく
～辰巳芳子 “いのちのスープ”～」

◆ 5月17日(木)

「旅の贈りもの 明日へ」

◆ 6月21日(木)

男女共同参画週間記念
「マダム・フローレンス
/夢見るふたり」

参加無料



「映画のつどい」はお申込みなしでご参加いただけます。当日の開始時刻(いずれも13:30)までにウィズセンター会議室へお越し下さい。

ご参加をお待ちしています。

※やむを得ず上映作品が変更になることがありますので、ご了承ください。



ウィズセンターは
土・日曜日も開館しています。
お気軽に、お越しください。

開館時間 火～土曜日／9：30～18：00
日曜日／9：30～17：00

休館日 月曜日・祝日・年末年始

ウィズセンターはこんなところ

- 情報提供**
 - 図書・DVD・ビデオ等の貸出
 - 人材情報・各種団体の活動情報の提供
 - 男女共同参画に関する資料の閲覧
- 各種講座**
 - 男女共同参画に関する各種講座の開催
- 相談**
 - 相談員による一般相談
火～土曜日(祝日を除く)
9:30～17:00(受付は16:30まで)
 - 特別相談(予約制)
弁護士による法律相談 原則第2・4金曜日
医師によるこころの相談 原則第1・3金曜日
 - 相談専用電話 ☎086-235-3310
 - 男性相談員による男性のための電話相談
原則第2金曜日 17:00～20:00
 - 男性相談専用電話 ☎086-221-1270
- 就業支援**
 - 就業に役立つ講座の実施
 - 就業に関する情報の提供
- 交流**
 - 各種団体へ活動・交流の場と機会を提供
- 広報**
 - 情報誌の発行(年2回)
 - メールマガジン・フェイスブックの配信(随時)



ウィズセンター



きらめきプラザ



ウィズセンターへお越しの際は、なるべく公共交通機関をご利用ください。

ウィズ 72号
2018年3月発行

編集・発行

岡山県男女共同参画推進センター
(ウィズセンター)

〒700-0807 岡山市北区南方2-13-1
きらめきプラザ(県総合福祉・ボランティア・NPO会館)6階

TEL 086-235-3307 FAX 086-235-3306

Eメール danjo@pref.okayama.lg.jp

WEBアクセス ホームページ <http://www.pref.okayama.jp/>

- 岡山県トップページ
- ▷ 組織で探す
- ▷ 県民生活部
- ▷ 男女共同参画推進センター(ウィズセンター)

ウィズセンター 検索



ホームページ



フェイスブック



古紙配合率100%再生紙を使用しています